

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200177		
法人名	社会福祉法人 中川町社会福祉協議会		
事業所名	中川町 グループホーム ひだまり		
所在地	北海道中川郡中川町字中川235番地6		
自己評価作成日	令和6年1月31日	評価結果市町村受理日	令和6年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中川町は、広大な大地と豊かな山々に囲まれた林業の町であり、中心を流れる天塩川と共に自然豊かな環境で暮らしています。近年、人口の減少と共に、町外へ流出される方も増えていますが、独居世帯でも近隣のサポートを受けながら、住み慣れた自宅で生活される方も多く見られています。その為、当グループホームでは自宅での暮らしのように過ごす事ができるように、第2の我が家を目指し職員一同が、「ここに住んで良かった。」「皆さんに出会えて良かった。」と入居者様が思っただけのように日々、取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193200177-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和6年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北海道の北部に位置する中川町にある「グループホームひだまり」は、平屋の建物で中川町唯一のグループホームとなっています。「ここに住んでよかった」「皆さんに出会えて良かった」を理念の基、慣れ親しんだこの地で住み替えても、安心して暮らせるように取り組んでいます。広い敷地内に開設したこの事業所は、木の温もりとゆったりと開放感があり利用者は思い思いの場所で寛いでいます。町立診療所からの往診がある事で健康管理や、週に1回の看護師によるバイタルチェックは安心の機会となっています。今年の花植えは利用者の好みの花をプランタンに植え土の感触を楽しんだり、利用者のそれぞれの力が発揮されるように、食材(フキ、うど等)の皮むきや食後の手伝いや事業所内の掃除等その日その時に出来る事をお願いして利用者の選択で好きなことを出来るように支援しています。将来介護職として繋がる目的を持って実習生を受入れており、社会福祉協議会を母体とし小学生・中学生の福祉教育や中川町の相対的な高齢対策として機能させ町役場・町全体へ周知・理解に努め当事業所円滑な運営のため施設改善などに取り組んでいます。また、職員はアンケートで自己評価・採点を行い介護の振り返りと改善に努め利用者を第一に考え支援することを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に理念を掲げ、理念に向かい職員一同が目標を持って、取り組んで行く事ができるように教育している。	職員に全利用者に笑顔で声掛けを行い疎外感を感じさせず快適に過ごせるように支援しています。理念はリビングで掲示し常に振り返り意識付けるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年はコロナ禍や、インフルエンザの蔓延等により地域との結びつきが減少していたが、感染状況等に合わせた取り組みができるように検討していきたい。	現在はコロナ禍の影響で町内会の交流を自粛していますが、事業所の通信や運営推進会議議事録を町内会に届け情報交換を行っています。恒例の消防団による獅子舞の訪問・交流があり利用者に喜ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に還元する事は出来ているとは言えないが、相談等あれば、親切丁寧にアドバイス等を心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、職員研修の内容の報告や虐待防止に向けた取り組み等について報告する等活用している。	年6回の運営推進会議は、家族、町内会長、婦人会会長、民生委員、役場職員、警察署、消防署と多くの参加を得て利用者状況やヒヤリハット等を報告し運営改善に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同じ町内でもあり、訪問機会も多い事から事業所の動向の報告等を積極的に実施している。	町役場担当は運営推進員で運営推進会議の情報交換や分からない点について直接伺いアドバイスや指導を受け良好な関係構築が図られています。地域ケア会議に管理者が出席するなど外部との情報交換が行われています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、禁止項目を含めすべて実施していない。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の観点から施錠している。	身体拘束虐待委員会は年4回、年2回の研修を行っています。運営推進会議を活用した会議と職員会議を適正委員会議としてしています。職員にアンケート調査(自己評価・自己採点)を実施し、不適切な言葉掛けなど日頃から注意喚起を行い職員に理解を求めています。	身体拘束適正委員会と研修会議の議事録が整理されておらず、出席や資料の受け渡しのサインの有無、議事録と研修実施が明確となるように期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、高齢者虐待防止法についての研修等を実施し(身体拘束を含め)虐待の芽を早期に摘む事ができるような支援体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象事例がないが、事例が発生した際には対応できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や法改正の際には、十分な説明と理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、積極的な情報提供や要望の確認を実施し互いに情報共有が行えるように心掛けている。	感染予防対策で面会制限がありましたが、状況を見ながら制限なしで居室で行われています。2ヶ月毎のホーム便りや運営推進会議議事録を全家族に配布しています。管理者が家族の家の訪問時や面会、電話連絡等で意見や要望を聞いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を募り、要望等があれば管理者会議等で報告する体制を整えている。	ユニット会議は必要に応じて開催され、カンファレンスを中心に利用者の生活向上・改善に対して積極的な意見交換がなされています。また、個々の職員が目標を決め評価することでスキルアップに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議等、代表者と管理者は情報共有に努め各個人が社会福祉協議会の一員としての自覚と責任を持ち仕事に取り組む事ができるように職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修等の実施は近年はないが、外部研修等も含め積極的に実施していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や地域ケア会議等への出席等情報交換の場を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等の汲み取りや会話の機会を設け不安の軽減を図り安心できる場所を提供できるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や面会時に合わせてご家族様の要望の確認を実施し良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をされる側、提供する側との区別なく良好な関係を築き、力関係を誇示する事のないように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との協同の元、入居者様を支えていく事ができるようにサポートを依頼している。入所時には強調して伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前の暮らしを継続できるよう、家族や友人との関係が途切れないように努めている。	8月頃より知人の面会も再開したり、家族の支援のもとお墓参りの外出やお坊さんが供養に来たり、家族と一緒に美容室に通う利用者もいて馴染みに関係が途切れないよう支援しています。家族参加の盆踊りや花火鑑賞を催し喜ばれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は、昔からの知人の方も多く馴染みの関係が崩れない様に環境作りに力を入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も要望があれば情報提供やサポートに努めている。必要書類にサインする程度で相談等の機会はこれまでにない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、本人の要望(意向)の確認を実施し、達成する事ができるようにサポートしている。	入居時のアセスメントや家族からの情報を基に、普段の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めています。会話が困難な利用者については、利用者の表情や職員の気づきから検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活の様子や生活歴を把握しサービスの提供に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の健康状態や身体機能の把握に努め、状態変化に気をつけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望やサービス提供について確認し内容について適宜、職員間での情報共有や改善等に努めている。	基本4ヶ月に1回見直しを行い、変化のある利用者にはその都度計画を作成します。利用者一人ひとりの希望や家族の思いを聞き取り、毎日の生活記録を基に担当職員の意見を参考にケアプランが作成されています。	職員の介護計画に対する理解と記録の在り方についてさらなる向上に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録業務がマンネリ化しているが、情報共有や見直しを実施し介護計画が実践的な物にできるようにしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の特性上、医療ニーズに応える事が中々できないが、可能な限りサービスの継続ができるように検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々に応じ、必要なサービスを提供し安心・安全な生活を送る事ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	適切な医療が受けられるよう、主治医と協力して支援に努めている。	2週間に1回の内科往診や希望する医療機関の受診、皮膚科・歯科の受診は必要に応じて事務所が対応しています。週1回の看護師による全利用者の健康管理を行い利用者家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	往診時等に適切な情報提供が行える様に看護師とも連携を行い医療面からの支援が提供できるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院先のソーシャルワーカーと連携し退院後のサポート等に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ適宜、家族や本人と話し合いを行い終末期という括りではなく状態に見合ったサービス提供が行えるように検討している。	看取りは行っていませんが、重度化や終末期に向けた指針を作成し終末期の医療についての事前調査を行いながら、時期が来たら利用者や家族にとって最善を考慮し、医療機関や事業所等で協働し取り組むことを説明し理解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応や連絡方法等を職員へ伝達しその時に、冷静に対処できるように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の様子を見学してもらったりしていたが、コロナ禍で近年は実施できていない。地域との協力体制を再度構築していきたい。	年2回の火災避難訓練は1回は消防立ち合いのもと夜間想定で実施し、2回目は日中の通報訓練を自主訓練で行っています。また、地震を想定したシミュレーションを行い利用者の命と安全に繋がるように取り組んでいます。自家発電を設置し、必要な備蓄を行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を保持し、馴れ合いにならないように注意し声掛け等を実施している。	基本〇〇さん付けで氏名・名前で呼んでいます。管理者は職員に強い口調の言葉使いをしないように指導しています。職員はトイレなど必ずドアをノックし声掛けをして入るようプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で物事を決めず、可能な限り入居者様の希望に沿った支援ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課に沿った暮らしの提供となつてしまっているが、本人のペースに合わせ急がせたりせずに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の選択を大切にしているが、季節に沿った洋服等を着用できるように、タンス内の整理や選択に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の身体機能の低下や感染対策もあるが、行事等での調理作業の実施等に留まっている。	委託業者のおかずとご飯やみそ汁等は職員で作っており、利用者に合わせた形状で提供しています。誕生日や行事食、気候により臨機応変に献立を変更して食欲がそそるように配慮しています。イベントで利用者と一緒に手作りのパフェなどで利用者の楽しみとなるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の状態を記録し、不足している際の調整や引継ぎ等での情報共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔内の清潔保持に努め、口腔の状況把握に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を確認し適時、トイレへの誘導を実施する事で不安感の軽減や排泄失敗の防止に努めている。オムツの方も入浴前にはトイレに寄る等の対応を実施している。	トイレでの排出を基本に排泄チェック表や表情・行動で見極めトイレへ誘導しています。安全性、安心感を得るため夜間のみや昼夜問わずポータブルトイレを使用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、排便状況を把握し状態に応じ乳製品を提供したり水分を多く摂ってもらう等の個人の状態に応じた対応を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間や曜日の限定はあるが、状況に応じ柔軟に対応できるように努めている。	週2回～3回、体調に合わせて入浴を支援しています。ゆっくりと会話を楽しむ利用者、一人ひとり合わせた入浴を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離床時間等については、強制せず入居者様の要望に合わせて休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更や注意事項等は職員間での伝達事項として、情報共有を図っている。又、看護師や主治医と連携し症状の変化等に注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホーム内での生活でも意欲や楽しみを奪う事なく、刺激のある生活を送る事ができるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会はコロナ禍の影響で減少している。人と接する機会も減少しており、地域や家族と連携して外出やふれあいの機会を設けていきたい。	個々の散歩やプランターの花の鑑賞・水やり、買い物などの外出支援を行っています。縁日や盆踊りスイカ割、クリスマス会等利用者の笑顔と気分転換なるように企画・実施しています。利用者の希望により孫の作品を見に文化祭見学に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額程度のお金は所持しているが、安心感の為でもあり、自ら使用する機会はほぼない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて、家族や知人へ連絡したり、取次ぎを実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふんだんに使った、ぬくもりのある環境となっており、居心地よく過ごしていただけるように工夫している。	感染症防止対策の配慮から間隔を空け、対面にならないテーブルの配置となっています。天井が高く開放感のあるリビングで四季を感じる飾りや行事の装飾がされており利用者に楽しんで頂けるように配慮しています。温湿度に配慮し過ごしやす環境になるよう心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファ等も多く配置し一人用ソファや数人掛けのソファ等、入居者同士の関係性にも、配慮し安心した生活を送る事ができるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた環境にできるだけ近づける事ができるように特に持ち込みに制限はしていない。ただ、近年は家具等を新しく購入する家族も増えている。	備え付けの収納し易い大きなクローゼットとベッドが用意され、各部屋には空気清浄機が置かれ西日の当たる部屋にはエアコンが設置され生活しやすい居室となっています。携帯で家族と連絡したり本を読んだり編物をしたりと自宅同様の生活環境を整えています。入口に木彫りの表札の方がおりその方が分かるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に且つ自立した生活を送る事ができるように工夫し対応している。		